

事例4

ロールプレイ

役割を演じて保護者の気持ちを理解する

東京都 品川区 二葉すこやか園(公立)

研修のねらい

- 保護者の気持ちを理解する
保護者の立場を体験することにより、保護者の気持ちに寄り添って対応する姿勢をもつ。
- 保護者への適切な対応の姿勢を学ぶ
「話を聞いてほしい」「アドバイスがほしい」など保護者の要望を読み取る感受性や、適切に対応するコミュニケーションスキルを身につける。
- 保護者対応の意識が共有される
園内で保護者対応に関する意識やスキルが共有され、保護者と園との信頼関係を深めることができる。

所要時間 45分

- 用意するもの
- ・記録紙(通常のノートでOK)
 - ・ストップウォッチ
 - ・面談自己評価シート

研修の流れ

1 イメージづくり 15分

役割分担(担任役・保護者役・記録係・タイムキーパー)を決め、話し合う題材(内容・条件・状況など)について確認します。今回の研修では、保護者からの手紙を事例にして問題点の共有を図りました。



POINT

- ★実際に保護者から寄せられた意見や苦情を題材に用いることで、主訴がより具体的になります。
- ★ファシリテーター(進行)役の先生(園長・主任など)が、問題の起こった背景などについて説明すると、参加者の理解が深まります。

2 ロールプレイ開始 5分

記録係は、担任役・保護者役の発言内容、反応や表情から心の動きを推察して記録します。実際の面談を想定して制限時間を設定。タイムキーパーが時間をチェックします。



POINT

- ★実際の保護者面談に近い状況を再現します。保護者の緊張を和らげるため、あえて向かい合わずに座り、「お忙しい中、ありがとうございます」とあいさつしてまず雰囲気や和らげました。
- ★保護者役は、保護者の気持ちを想像し、なりきることが大切です。

3 感想や意見を伝え合う 10分

担任役・保護者役・記録係・タイムキーパーの先生がそれぞれの感想や意見を伝え合います。



POINT

- ★担任役は「保護者に何を伝えようとしたか」、保護者役は「担任のどのような言葉に心を動かされたか」、記録係やタイムキーパーは「見学者として、どう感じたか」など、それぞれの立場から感想を述べるとよいでしょう。

4 まとめ 15分

ファシリテーター役の先生を中心に、保護者対応について話し合います。ロールプレイの題材に限らず、保護者と向き合うときに大事にしていることなどで話を広げると、学びが深まります。

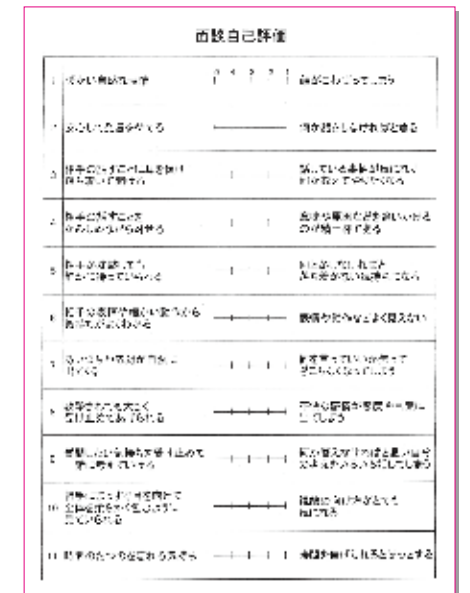


POINT

- ★ファシリテーター役の先生が一方的に話すのではなく、「あなたが担任役だったら、どのような話をしたか」などと質問して、話し合い形式のまとめにすると、参加者の考えがより深まります。

5 実際の保護者面談

ロールプレイの学びを生かして、実際の保護者面談に臨みます。終了後は、「面談自己評価シート」を用いて振り返り、課題の発見につなげます。



※面談後などにロールプレイの内容を項目ごとに5段階で自己評価。保護者に安心してほしい、信頼関係をより深められる対応ができたかを振り返ります。

研修を受けた感想

板井典子先生 (保育長)

◎担任役として研修に臨みました。最も心がけたのは、まずは保護者の話に耳を傾け、相手の気持ちを理解する姿勢を十分に示してから、互いに無理のない解決策を提示することです。研修を通して、保護者との協力関係を強める必要性を改めて感じるとともに、ふだんから保育者同士が保護者や子どもに関する情報を共有することによって、園全体で子育てをしているという安心感を保護者にもっていただきたいと思いました。

山田千夏先生 (3歳児クラス担当)

◎記録係として、「自分なら、どのように接するだろうか」ということを念頭に置きながら、ロールプレイに参加しました。担任役の板井先生は笑顔をやさしく、「お母様も大変でしたね」などと共感の言葉をかけるたびに、保護者役の大崎先生の表情が自然と和らいでいくのがとても印象的でした。「自分なら真っ向から意見を主張してしまいそうだな」などと反省するポイントが多く、とても有意義な学びとなりました。

大崎翔子先生 (2歳児クラス担当)

◎初めて保護者役を体験しました。最初は少し照れがありましたが、しだいに入り込み、園に対する不満を述べるときには怒りのような感情がわいてきたのには自分でも驚きました。それだけに、担任役の板井先生が私の主張をすべて受け止めるという態度を見せてくれたときには、うれしさから心が落ち着くのがよくわかりました。今後も、常に保護者の気持ちに寄り添えるように努力したいと思います。

・タイムキーパー役は峯崎由美子先生(2歳児クラス担当)が務めました。

研修の方針

園長 大竹節子先生

◎保護者の皆様に「この園なら、この先生なら、子どもを任せてもいい」と思ってもらえる安心感と信頼感を築くのが、当園の目標です。しかし、保護者対応は経験を積み重ねるものではなく、むしろベテランほど「こうあらねばならない」という気持ちが強まり、保護者と衝突することがあります。ロールプレイは、保護者の気持ちを想像し、理解し、いかに対応すべきかというプロセスを学ぶには最適なトレーニングです。ただ不満を聞いてほしいだけなのか、アドバイスがほしいのか、といった保護者の要望を即座に感じ取る感受性を身につけ、保護者と協力しながら子育てをしていくためのコミュニケーションスキルをみがくことができると思います。

二葉すこやか園(二葉幼稚園・二葉つぼみ保育園)



◎幼稚園内に保育所を併設する幼保一体施設。園舎(2階建て)の1階2室を保育所保育室とし、園庭では幼保の子どもたちが一緒に遊んでいる。幼稚園では預かり保育も実施している。

- 園長 大竹節子先生
- 所在地 〒142-0043 東京都品川区二葉1丁目3番24号
- 園児数 二葉幼稚園124名(4クラス・2年保育)、二葉つぼみ保育園43名(0～3歳児)

各園の園内研修に見る取り組みの工夫

今回、事例でご紹介した園は、特別に講師を招へいしたり、大がかりな準備や場を設定したりせず、通常の保育実践の場や勤務時間内で行える園内研修を実施していました。園内研修の実施にあたって、先生がたに負担を感じさせないようにすることが基本と言えるでしょう。

事例1は、研修用のビデオを用いて、参加者全員が同じ場面を見て、気づいたことを話し合う方法です。ここで、保育者は同じ場面でもそれぞれのとらえ方が違うことに気づき、驚きます。そして、子どもの動きや表情ひとつをとっても、いろいろな見方があることを知り、自分の保育を見直すきっかけになっています。本来、ビデオカンファレンスは、自分の保育をビデオに撮影し、参加者から感想や意見をもらいながら保育を見直していく方法ですが、慣れないと抵抗があります。その場合はこの事例のように市販の研修用のビデオを使うと、遠慮し合わずに意見を交わすことができ、準備にかかる労力を少なくすることができます。

事例2の合同研究保育では、限られた時間の中で研修を行うために、午前中で保育の参観と話し合いを終了する方法をとっています。短い時間を有効に使う方法の一つと言えます。また、園長先生の「研修を通して若い先生に自信をもってもらいたい」という趣旨で、見学後の話し合いでも、「よいと思った点」からのコメントを促すなど、まずは「批判せずに認め合う」ことを実践されて

いました。

事例3では、保育者全員による「教育課程の見直し」を行っていました。これは、「園の教育目標と実践を具体的に近づきたい」という園長先生の強い思いがあつての取り組みです。この園長先生の哲学（園としての方向性や保育のビジョン）の大切さについては、巻頭の秋田先生のお話（5ページ）にも述べられています。また、ベテランの先生も若手の先生も全員が参加することによって、話し合いが、それぞれの経験をもととした学び合いの場となっています。

事例4は保護者理解を深める視点からの研修事例です。研修は子どもを見る視点を深めるというだけでなく、保育を保護者に説明する姿勢

を見直す機会にもなります。ここでは、「保護者の思いをまずは受け止めること」が大切であることを学びますが、これは保護者に対する姿勢として、大豆生田先生のお話（8ページ）でも大切な点としてふれられています。保護者とのかかわりについて、幼稚園教育要領には「家庭との緊密な連携を図るようすること」、保育所保育指針には「保護者に対する支援を行うこと」とそれぞれ明記されています。今後、ますます保育者の価値観は多様化し、園への要望も多岐にわたることが予測されます。そのような状況に対応するために、ロールプレイのように、役割や立場を変えて相手の理解を深めることも、有効な研修の一つでしょう。

まとめ

園内研修のメリットは、保育者が自園の課題を見つけ、共に学び合いながら解決する方法を考えられることです。そのため、どの園でもそれぞれの状況に応じて、効果的な研修方法で取り組んでいると思います。今回取材した園においても、ご紹介した方法はその一部で、実際にはさまざまな方法を組み合わせて実施しています。その中で共通している取り組みのポイントは、**①保育者全員がかかわり、話し合いの中で共通理解を得る ②短時間でも振り返り、話し合う機会を継続的にもつ ③自分の保育観を文字にして周囲に伝える ④園長や主任の先生は、保育者自身が答えを見つけられるよう的確な助言を行う、**というようなことでした。

園内研修を通して、子どもたちを見る視点や保護者への理解を深めていくことにより、保育はさらに充実したものになっていきます。今回ここにご紹介した事例やポイントが参考になれば幸いです。

保育の質向上を目指して 保育者研修の現状と課題

保育の質向上への関心が高まる中、現場ではどのような取り組みがされているのでしょうか。

ここでは、ベネッセ次世代育成研究所が行った「第1回幼児教育・保育についての基本調査（幼稚園編／保育所編）」の結果をもとに、園内研修・園外研修の実態や、保育の質向上のための今後の課題について見ていきましょう。

幼

今回ご紹介するデータの調査概要

保

調査名 第1回 幼児教育・保育についての基本調査（幼稚園編）
調査テーマ 国公立・私立幼稚園の教育活動、子育て支援活動などに関する意識・実態調査
調査方法 郵送法（自記式アンケートを郵送により配布・回収）
調査時期 2007年6月
調査対象 全国の園児数30人以上（一部、園児数不明の園も含む）の国公立幼稚園の園長・副園長（教頭）・主任の先生（1園につき1名が回答）

【サンプル数】

	合計	国公立	私立
発送数	7,100件	1,420件	5,680件
有効回答数	1,604件	401件	1,203件
回収率	22.6%	28.2%	21.2%

調査名 第1回 幼児教育・保育についての基本調査（保育所編）
調査テーマ 2008年3月告示の保育所保育指針への保育所の対応と、保育所における保育の実態・課題を明らかにし、改善の方向性を探ること
調査方法 郵送法（自記式アンケートを郵送により配布・回収）
調査時期 2008年9～10月
調査対象 全国の園児数30人以上（一部、園児数不明の園も含む）の認可保育所の所長・施設長（園長）、副所長・副施設長（副園長）、主任 ※乳児のみの保育所は除く

【サンプル数】

	合計	公立	私立
発送数	12,000件	6,000件	6,000件
有効回答数	3,018件	1,584件	1,434件
回収率	25.2%	26.4%	23.9%

※本結果のサンプル数は公営（公設公営）1540園、私営（民設民営、公設民営）1478園

※幼稚園編が引用元となるデータには「幼」、保育編が引用元となるデータには「保」のマークを表示しています。

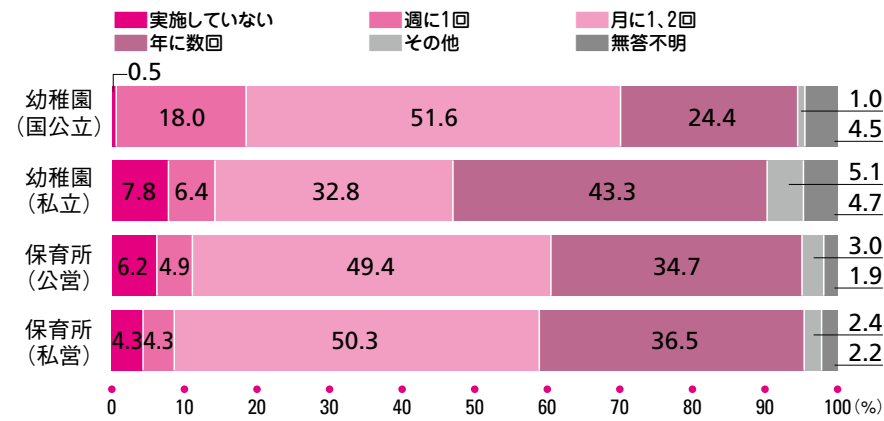
幼 保

園内研修の頻度

国公立幼稚園・保育所では月に1、2回、私立幼稚園は年に数回が最も多い

Q 園内研修（自園で主催する研修）を実施する頻度を教えてください。

図1 園内研修の頻度



注1 最も近いものを1つ選択

★園内研修の実施頻度を聞いたところ、保育所では公私の差がほとんどなく月に1、2回実施している園がもっとも多いことがわかりました。一方、幼稚園では、月に1、2回以上行っている園が国公立で約7割ですが、私立では4割と差が見られます。この調査においては研修の内容までは聞いていないため、頻度が多ければよいということではありませんが、保育者全員が園の課題や教育方針について共通認識をもち、改善していくような取り組みが大切と言えるでしょう。